

十和田湖における観光開発

山 美 秀 樹

1. は じ め に

本研究は青森と秋田の県境に位置する十和田湖とその周辺における観光開発について今後どのように発展していくか考察するものである。

十和田八幡平国立公園内の地域については、自然景観を保護しながら観光開発を行わなければならない。他の自然公園同様に視点をしっかり持つことが重要である。また、近年地方の見直しに伴う開発が様々に行われる中、観光というものが他の経済的再建などと比較してもかなりの期待を持たれている。

研究方法としては、十和田湖が県境に位置し市町村を複数含むため、青森・秋田・岩手県の観光統計概要と各県における観光パンフレットの分析に加え、青森県庁と十和田湖町での聞き込み調査をもとにして考察することとした。

2. 地 域 概 況

十和田湖は面積59.1km²の典型的な二重式陥没カルデラ湖で、湖水面は標高400 mである。湖の南岸からはカルデラによって御倉半島と中山半島が突きでている。自然景観に富み、子ノ口から焼山にわたる約14kmの溪流や各地に点在する滝などは美しく、四季によって様々に変化する。

湖の周辺にはキャンプ場や展望台が設けてあり、付近には温泉郷などがある。十和田湖は現在では国道102号線と103号線と一般道によって囲まれている。

十和田湖は昭和11年2月1日に十和田国立公園に指定され、昭和31年7月10日に八幡平地区が加わった十和田八幡平国立公園内にある。その中で十和田湖は行政面からすると、一県に属さず北側の県境は境界未定の部分がある。

3. 観光開発の現状

(1) 開発状況

(i) 交通面

航空路、鉄道、道路についてみる。空港の分布についてみると、青森県側には青森・三沢に、岩手県側には花巻に、秋田県側には雄和にある。現在では青森―東京間が所要時間1時間10分で結ばれている。

鉄道の様子をみると、主として東北本線と奥羽本線が移動手段の中心となっている。また、

現在盛岡市まで東北新幹線がのびているが、これから先、北へのびていくことが考えられる。現在、青森―上野間が4時間50分で結ばれている。

道路の状況をみると、昭和43年に十和田湖一周道路が完成し、国道7号線と4号線はこれに連結する重要な役割を占めている。昭和54年10月18日の盛岡IC―滝沢IC間の東北自動車道の開通後、北へのびて現在では青森と八戸にそれぞれ結びついている。これによってハイウェイバスで青森―東京間が9時間30分で結ばれている。

(ii) 行事の状況

観光を目的とする行事は十和田湖とその周辺において多数ある。十和田湖では、十和田湖雪まつり(2月)、十和田湖湖水まつり(7月)、十和田湖国境まつり(9月)などがあり、平成2年3月にはスノートライアスロン大会などを企画している。

また、「冬紀行」と題して冬季の活性化を目的とし、平成元年から3年企画で週末のレクリエーションの催しを行っている。

(iii) 県及び市町村の状況

県としての観光へのアプローチとしては企画案を出すことだけでなく、実質的には市町村がそれぞれに活動することが中心である。県としては公衆トイレの設置や看板の設置などを行い、市町村の活動には補助金を与えたりしている。

市町村の例として十和田湖町をみると、空中探査による温泉の発見を行おうとしていたり、県との話し合いによる様々な問題の改善にとりくんでいる。

(2) 観光状況

『観光白書』によると、志向の多様化、自家用車の普及、核家族化の進展などにより観光も変化し、「見る観光」から「する観光」へ変化してきたといわれる。また、長期滞在型旅行の増加、小グループ化、家族単位や高齢者の旅行の増加がみられる。

十和田湖周辺の様子についてみることにする。表1の客の入込数の状況をみると、十和田湖に接している十和田湖町と小坂町にはかなりの人数がみられる。また両町では共通して、県内客が他の市町村では比較的多いのに対し、県外客がかなり多くなっている。県外・県内客にかかわらず日帰り客と宿泊客とを

表1. 昭和63年度 市町村別推計入込数内訳
(青森・秋田・岩手)

(延数：単位千人)

市町村別	入込数	県内客	県外客	日帰り客	宿泊客
青森県					
十和田市	470	404	66	380	90
十和田湖町	2,357	1,044	1,313	1,363	994
平賀町	430	345	85	349	81
黒石市	866	745	121	784	82
秋田県					
碓氷川村	377	259	108	253	124
大鰐町	634	493	156	548	107
新郷村	144	134	10	139	5
三戸町	597	537	60	588	9
田子町	61	50	11	55	5
小坂町	1,390	391	999	1,161	229
秋田県					
鹿角市(大瀬)	100	43	51	61	39
〃(瀬川)	197	65	131	41	156
〃(八幡平)	1,346	524	822	1,147	199
〃(花輪その他)	474	113	361	442	32
鹿角市計	2,117	752	1,365	1,691	426
岩手県					
安代町	1,062	443	619	908	154
浄法寺町	92	50	42	91	1
二戸市	322	163	159	207	115

昭和63年度青森県観光統計概要
昭和63年度秋田県観光客数調べ
昭和63年度岩手県観光統計概要

表 2. 昭和63年度 自然公園観光客数（青森・岩手・秋田県）

（単位：千人）

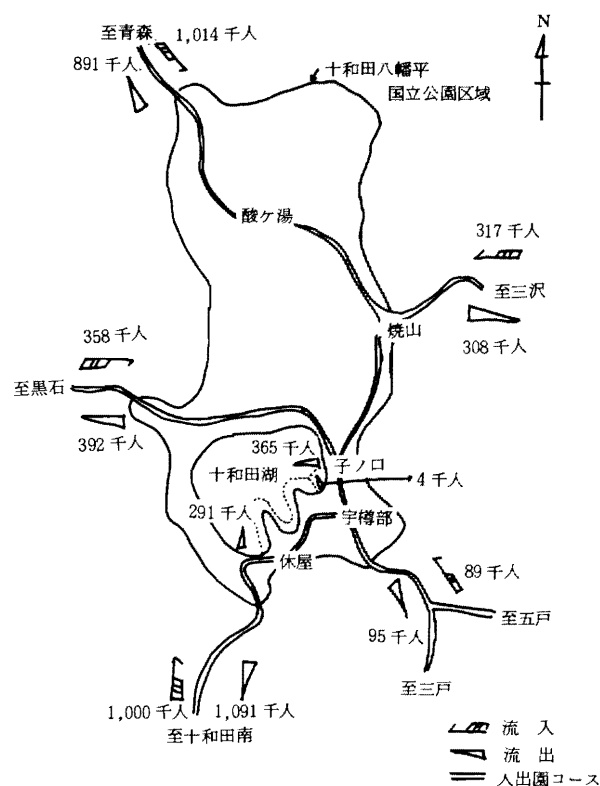
観 光 地 名	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合 計
国 立 公 園	十和田（青森）	33	39	46	71	359	320	303	528	354	633	64	2,777
	〃（秋田）	22	25	18	20	99	143	193	285	151	429	32	1,454
	〃 小 計	55	64	64	91	458	463	496	813	505	1,062	96	4,231
	八幡平（秋田）	54	26	28	39	266	202	208	348	252	411	45	1,920
	〃（岩手）	170	132	107	259	184	193	245	383	220	443	55	2,491
	〃 小 計	224	158	135	298	450	395	453	731	472	854	100	4,411
	陸 中 海 岸	222	67	130	364	942	558	1,249	2,202	672	533	235	7,336
国 定 公 園	下 北	49	57	33	22	68	93	289	275	202	144	18	1,270
	津 軽	48	28	30	82	182	242	429	666	270	158	49	2,220
	島 海	35	39	29	39	133	102	178	331	98	116	31	1,165
	男 鹿	67	40	63	86	287	167	375	628	208	251	98	2,338
	栗 駒（秋田）	24	17	16	10	23	35	52	87	67	88	38	474
	〃（岩手）	12	13	10	5	26	43	81	89	56	100	8	449
	〃 小 計	36	30	26	15	49	78	133	176	123	188	46	923
	早 池 峰	—	—	—	1	5	34	45	52	33	5	1	177
	合 計	736	483	510	998	2,574	2,132	3,647	5,874	2,583	3,311	674	24,071

昭和63年度青森県統計概要
昭和63年度秋田県観光客数調べより作成
昭和63年度岩手県統計概要

みても、他の市町村と比較して、小坂町は少ないが十和田湖町においては宿泊客の割合がかなり多い。このことから宿泊施設がかなり使われているといえる。

表2より、自然公園のなかでは国立公園に観光客が集中していることがわかる。また、ゴールデンウィークからシルバーウィークにかけて、夏休み期間を含む5月から10月の夏季を中心とした観光客の動きがみえる。

図1によって交通面から客込み状況をみえる。十和田南口と青森口が流出入の重要な位置を占め、黒石口、三沢口、三戸・五戸口が少ない。表3によって、特に黒石口と三戸・五戸口は冬季の間は閉鎖されていることの影響がわかる。また、図2より十和田南口の伸びがかなり目立っている。これは高速道路開通の影響があると考えられる。昭和62年か



昭和63年度 青森県観光統計概要より修正

図 1. 昭和63年度 十和田湖周辺流量図

表 3. 昭和63年 月別の利用車状況

(単位:人、%)

利 用 車	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合 計
定期バス及び貸切バス													
青 森 口	3,715	4,199	5,750	12,667	48,357	45,841	39,289	73,906	44,172	81,048	6,157	3,949	369,060
三 沢 口	635	778	765	1,466	9,611	11,410	9,625	8,241	15,651	19,262	2,389	1,038	80,871
黒 石 口	—	—	—	4,138	24,275	23,102	10,736	8,109	11,709	11,363	915	—	94,347
三戸・五戸口	—	—	—	—	1,240	970	1,042	1,365	1,606	3,097	432	—	9,752
十和田南口	1,528	3,572	6,515	9,049	75,261	61,970	38,350	74,461	53,710	121,567	14,930	3,151	464,064
小 計	5,878	8,549	13,030	27,330	158,744	143,293	89,042	166,082	126,848	236,337	24,823	8,138	1,018,094
構 成 比	0.6	0.8	1.3	2.7	15.6	14.1	9.7	16.3	12.5	23.2	2.4	0.8	100.0
乗 用 車 他	27,263	30,781	32,540	43,973	200,515	176,770	204,033	361,455	226,899	396,633	39,575	18,469	1,758,906
合 計	33,141	39,330	45,570	71,303	359,259	320,063	303,075	527,537	353,747	632,970	64,398	26,607	2,777,000

ら63年にかけて青森口、十和田南口、黒石口では入園数が減少しているのに対し、三沢口、三戸・五戸口で増加しているのは、その頃整備されつつあった高速道路八戸線が影響しているとみられる。

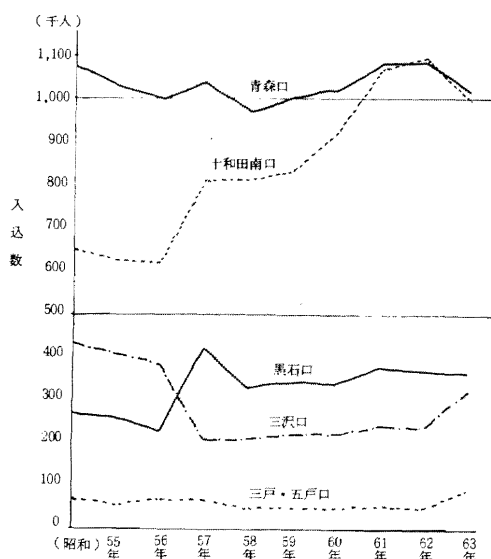
4. 観光開発として望まれること

(1) 観光状況の予測

様々な開発が起こってくると考えられるが、現状にあっては国立公園内に手を加えていくことができない。

高速道路は客の流入・流出に関係することから、平成2年に完成する小坂ICによって再び十和田南口の流出入が一時的に増加するかもしれない。しかし、八戸線の全面開通によって三沢口、三戸・五戸口がのびていくとも考えられる。

昭和63年度 青森県観光統計概要より修正



昭和63年度 青森県観光統計概要より作成

図 2. 十和田湖入園口別入込数

交通の流れという点から青函トンネルの開通をみると、これまで意識上本州の北端として留まる地域としてあったものが、北海道へむかう一地点としてとらえられるようになってきたと思える。そのため通過点として十和田湖を利用する観光客が多くなることも考えられる。

(2) これからの開発

(i) 冬季開発

県や市町村において冬季の活性化がいられている。表2のように夏季には観光客の過剰がみられるのに対し冬季は少なく、開発の余地があると考えられている。

十和田湖は積雪によって冬季閉鎖される道路もあって、シーズン・オフを持つ観光地と考えられがちである。現在では、冬季の活性化のために様々な行事を行っている。

冬季に黒石口と三戸・五戸口が閉鎖されることが問題で、特に津軽地区の豊富な観光資源との関連から黒石口の開通が望まれるが、自然景観保護と積雪量から困難な問題として残されている。

(ii) 広域観光

県内レベルでの広域観光は考えられているが、県同士の協同による考えは目立ってはいない。観光客側にとってみると県境などには意味があまりないだろう。

そのため3県それぞれにある観光地や温泉郷と関連するルートが考えられる。図3のように冬季を例としても、スキー場などが各地に点在している。そこで各地で行われる行事が時期的に同時期なら、順に見てまわる方法など、細かく広域なルート案も必要となる。

(iii) 地域開発

十和田湖周辺において目立って行われる開発はないが、2つの視点を持ててみた。

1つは小坂町、1つは八戸方面の南部地区である。小坂町は高速道路や八幡平地区との関連から十和田湖への流出入の通過点となっていて、もっと小坂町から十和田湖にかけて観光性をアピールすべきではないかと考える。

八戸方面の南部地区においては、産業都市として発展してきたため観光は弱いが、八戸線の開通に伴って活性化をすべきだと思う。

5. ま と め

青函トンネルの開通、東北自動車道の全面開通によって高速性がすすむ中、十和田湖は依然として夏季型の観光地である。これに対し通年型、すなわち冬季の活性化が望まれている。そこで閉鎖される冬季の黒石口などの開通が大きな問題としてあげられている。他の活性化の方法がないということから、広域的観光地のイメージを持たせることを考えてみた。

本研究において、実態の分析により冬季の開発が注目されていることがわかった。しかし観光資源を重視することから、十和田湖を中心とする国立公園内でなくむしろその周辺で行われることだろう。これからの発展に期待したいものである。

最後に本論文作成にあたり御指導いただいた後藤先生、水野先生に深く感謝致します。また謝辞をいただいた方々に感謝致します。

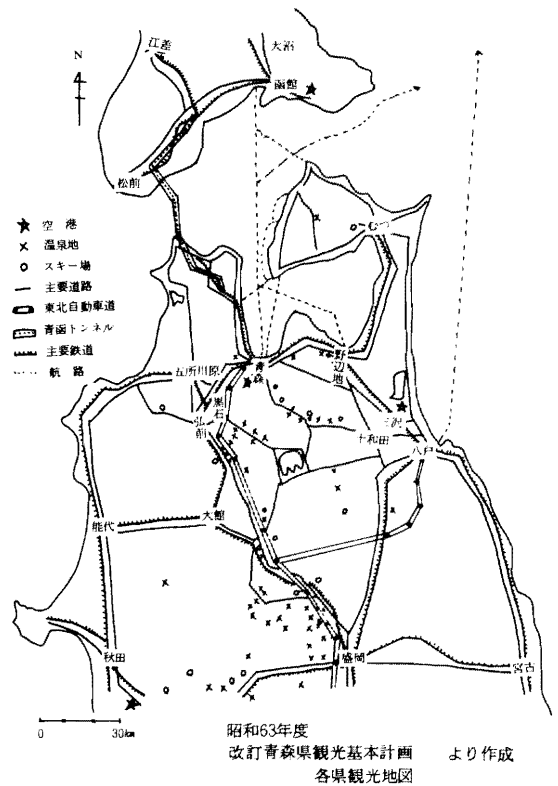


図3. 広域観光ルート図

【参考文献】

○討辞：青森県庁観光物産課・十和田湖町役場観光課の方々

○資料：青森県「昭和63年度青森県観光統計概要」

青森県「昭和63年度改訂青森県観光基本計画」

秋田県「昭和63年度秋田県観光客数調べ」

岩手県「昭和63年度岩手県観光統計概要」

○淡野明彦（1985）：沿岸域における民宿型観光地域の形成

—三重県鳥羽市相差地区の事例—

地理学評論，58—1，19—38

○淡野明彦（1986）：沿岸域におけるリゾート型観光地域の形成

—三重県志摩郡浜島町迫子地区の事例—

人文地理，38—1，7—251

○総理府編：観光白書（平成元年度）